

佐藤 豊幸（さとう とよゆき） 大陽日酸 執行役員

矢菅治彦（やすが はるひこ） ベトナム・ジャパンガス社長

フィン・クエット・タン ハノイ工科大学 副学長

田中 学（たなか まなぶ） 大阪大学接合科学研究所 副所長

ご列席の皆様、

●大陽日酸、ベトナム・ジャパンガス、ハノイ工科大学、大阪大学の日越産学連携・共同研究の調印式開催にお祝いを申し上げますとともに、日本政府を代表して、一言御挨拶を申し上げます。

●この度の日越産学連携・共同研究は、参加企業・大学の「連携強化」にとどまらず、日越産学連携の「ロール・モデル」となるものであり、間違いなく日越関係全般の強化にも資すると考えます。

また、本日の調印式を日越外交関係45周年事業の一環として開催いただいております。調印式実現にご尽力いただいた全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

●日越経済関係について一言説明させていただきます。

昨年 of 日本企業の対越直接投資（認可ベース）は、一昨年の約4倍、91億ドルと史上最高額でした。

また、在越日本商工会に加盟する日系企業数は、今年2月在タイ日本商工会に加盟する企業数を抜き、アセアン内で一位となりました。日本企業のベトナムに対する投資意欲は引き続き高く、今年3月公表したJETROの調査では、37.5%（前年度は34.1%）の企業が投資先としてベトナムを選び、世界で2番目の高さでした。

●ベトナムは、昨年6.81%、今年第一四半期7.4%の経済成長率を記録する等、成長の勢いに満ちていますが、大きな課題に直面しています。

具体的には、ベトナムはこれまで「外国投資と低賃金」に依存してきた成長を「持続的」なものとするために、「新たな成長モデル」の確立を必要としています。

新たな成長モデル達成のためには、「競争力のある地場産業育成」、「国有企業の民営化」、「労働生産性向上」、「高度な技術を持った人材育成」が必要です。

●本日調印された共同研究は、大陽日酸の高性能な溶接ガス、大阪大学の世界トップレベルの溶接技術を用いて、まさに、高度な技術を持つ人材の育成を行うものであり、このことは、地場産業の育成、労働生産性の向上につながり、ベトナム経済の発展に貢献するものと考えます。

また、大阪大学及びハノイ工科大学は、溶接技術者研究開発センター設置構想も進めておられますが、まだ、ベトナムの大学では少ない、研究に根付いた社会に役立つ技術の開発拠点のさきがけになっていくものと期待します。その実現はベトナムの持続的成長に資する、時宜を得た協力であります。

●更に、大阪大学は、溶接技術による貢献だけでなく、様々な分野でベトナムの人材育成に貢献されており、感謝を申し上げます。

例えば、昨年12月、ベトナム科学技術アカデミー（VAST）に、大阪大学ジョイント・キャンパス・オフィスを設置し、「環境研究」を進めています。また、日越大学では、ナノテクノロジー研究を担っておられます。

引き続き、ベトナムとの共同研究・人材育成の協力をお願い申し

上げます。

●最後に、皆様の御健勝、共同研究の成功、日越関係の更なる強化の三点を祈念し、私の挨拶と致します。

ありがとうございました。(了)